自ら学ぶ意欲の育成と持続をめざして
―― 追求過程にひとり学習と集団学習を位置づけた試み ――

上之園　　強

1　はじめに

(1)　個が生きる授業とのかかわり

十人十色という諺があるように，人は目に見えるものから見方，考え方，性格，興味，関心など人の内面にかかわるものまで，すべて一人ひとり個有のものをもつ存在であるといえる。

従って，社会科の授業において，個が生きるとは，社会事象に対して，それぞれの児童が自分の見方や考え方を持ち，それに基づいて自分なりの方法で追求し，より深い見方や考え方を培っていくことであると考えている。ここで，児童個々の見方，考え方の深まりについては，単に個人指導のみでは不十分であり，集団の中で，それぞれの見方，考え方にふれあい，吟味しあうことによって，より確かなものへと深まっていくと考えている。このような考え方に立ち，社会科における「個が生きる授業」を次のようにとらえている。

> 児童が自らめあてを持ち，意欲的に社会事象を追求し，集団とのかかわりの中で，それぞれの見方や考え方を出し合いながら，一人ひとりの力を最大限に発揮していける授業

このように「個が生きる授業」を自分らしさが発揮できる授業であるととらえているが，この自分らしさを発揮する基盤をなすものは，児童一人ひとりの学習に対する意欲であると考えている。自ら学ぼうとする意欲が生まれてはじめて，自分らしい学習ができ，より確かな見方，考え方を自ら培うことができるのである。

そこで本稿では「個が生きる授業」の基盤をなす，自ら学ぶ意欲の育成にしぼった試みについて述べてみたい。

(2)　自ら学ぶ意欲の育成と持続化にあたって

自ら学ぶ意欲を育成し持続させていくためには，児童が学習のめあてを把握し，自ら「追求したい」という意欲を喚起する場と，その意欲を持続，強化していける追求過程を設定していくことが必要であると考えている。本実践では，特に追求過程に，児童がひとりでめあてを追求する「ひとり学習」とさらに集団で考え追求する「全員学習」の２ステップを位置づけた展開について述べてみたい。このような［ひとり学習］→［全員学習］の２ステップの追求過程を位置づける効果として，次の点を考えている。

「ひとり学習」

○自力で解決する場におかれるため，学習の主体者としての自覚が強まり意欲が高まる。

○学習のめあてに対して自分なりに調べたり考えたりすることができる。

「全員学習」

○ひとり学習で自分の考えを培うことができているため意欲的に参加できる。

○　　〃　　〃　　互いの吟味の際，深い理解が得られる。

○ひとり学習での自分の不備や誤りを修正，補充できる。

以上の考え方に基づき，本実践の仮説を次のように設定した。

仮説

追求過程に，児童一人ひとりが自力で解決する ひとり学習 と集団で思考し吟味する 全員学習 の２ステップを設定するならば，児童は意欲的で深まりのある学習ができるのではないか。

自ら学ぶ意欲、態度を育てる学習の構造（１時間および１単元）　**（資１）**

学習過程		児童の意識や活動	教師の留意すること
課題把握	課題の把握	（社会事象との出会い） ・驚き，矛盾，とまどい ・知的葛藤，知的好奇心 ・自分なりのめあての設定	（教材の開発，提示の工夫） ・ほどよい抵抗感のある教材 ・具体的で心情のゆれをひきおこす ・主体的追求に向かえるもの
追求	ひとり学習	（自己に挑戦） ・試行錯誤 ・自分なりの考えの深まり	（自力解決させる工夫） ・時間の保障 ・調べ方への示唆 ・試行錯誤の容認
	全員学習	（確かさへの追求） ・他への共感，受容，批正 ・学習内容の深化，修正 ・自己表現	（集団で思考し深める工夫） ・深化，拡散をうながす発問 ・子どもの調べ学習を生かす展開 ・自己表現をうながす姿勢づくり
まとめ	まとめ 評価 発展	（成果の確認） ・内容の深まり，広がり ・学習方法の吟味 ・満足感，達成感 ・新たな追求意欲	（個に応じた評価の工夫） ・学習意欲，学習方法，取り組への着目 ・学習内容の変容への着目 ・他者からの承認の位置づけ

2　実践事例　第４学年「中央公園がつくられてきたようす」

(1)　単元のねらい

中央公園はそれぞれの時代の人々の願いを生かしながら，長い年月をかけてつくられてきたことを理解させる。

(2)　単元展開……資料２

(3)　めあてを持ち予想する場

公園建設の経緯を知り，長い間かけてつくったことへの驚きを児童がもったところで，みんなの一番好きな施設はどれか聞いてみた。するとほとんどの児童がファミリープールや児童文化科学館など日ごろよく利用する楽しい施設を挙げてきた。

そこで次のような発問を行い，予想させてみた。「みんなの好きなファミリープールや文化科学館を最初のころ（昭和21年ごろ）つくらなかったのは，どうしてか？」児童は自分だったらはやくつくりそうなのに，どうしてだろうといろいろな考えを出してきた。以下はその主なものである。

○戦争が終ってお金や物，つくる人もすくなかったから。(37人) ○建物や科学館のなかのような機械などをつくる文化がすすんでいなかった。(30人)

○そのころの子どもは外で遊んで今の子のように部屋のなかで遊んでいないから。(7人)
○そのころの川や海はきれいでプールなどをつくらなくてもよかったから。(24人)

学習過程	主な学習内容と活動	児童の意識
まとめ 評価 ←集団追求 ←個人追求 ←学習のめあての把握	①中央公園建設の経緯を知る ・昭和21年からすこしずつつくられた (1) ②自分たちの好きなフアミリなどを昭和21年ごろつくらのはどうしてか、予想する ・戦争により人、物、お金が不足したから (1) ・子どものくらしが今とちがうから ・自然が美しいから ③自分の予想を自分なりの方法でたしかめる (2) ④集団でそれぞれの予想をたしかめる ・つくるお金や食べるものにも苦労する時代 (1) ・子どもは川や海で泳いでいた ⑤生活のくるしい時代に子ども図書館ができたのはどうしてか予想しらべる ・平和な世の中を願う人々の心で (2) ⑥学習したことをまとめる (1)	なるほどよくわかった ←おかしいぞ ←○○はどうしてか ←なるほどよくわかったぞ ←わかってきたぞ ←○○でしらべてみよう ←○○ではないか？ ←ずいぶん長くかかったのだなあ

単元展開・（）は時数

資(2)

いろいろとみんなで話し合ってみたが，はっきりとしたことがわからない。そこで，当時のくらしのようすや図書館建設に関する内容を，まずは児童一人ひとりで調べていくことにした。ひとりで調べるにあたっては，その調べる方法をみんなで確認して学習を進めた。

(4) 一人で自分の予想をたしかめていくひとり学習

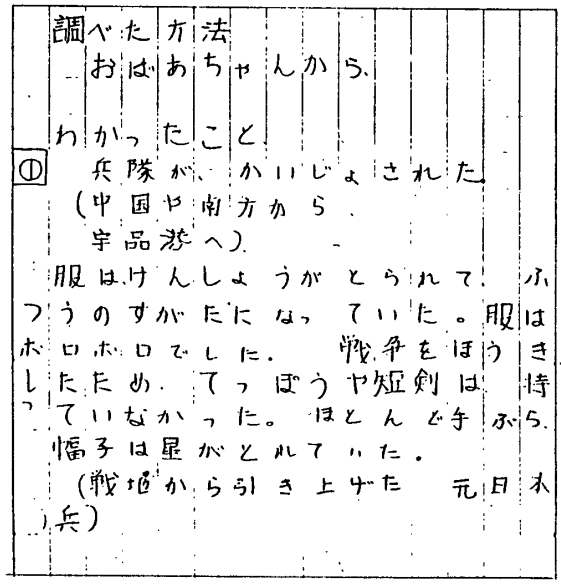
児童が調べた方法をまとめてみると以下の通りである。

本で…・わたしたちの広島県（副読本）　・明治百年の歴史　・広島県の歴史（図書室で）
　　・東雲附小百年史
人に…・祖父母に聞きにいく。　・電話で祖父母に聞く。　・施設に直接聞きにいく。

児童一人ひとりに，調べる学習をまかせた場合に陥りやすい問題点は，資料収集で迷うこと，資料の事実のみをうつして，学習に深まりがみられないことである。そこで，これらの問題点を改善していくために，次のことを考えてみた。

資料については，当時のようすをとらえることのできる本を事前に紹介し，その使い方を説明した。また遠方の祖父母への聞きとりは電話が活用できることを紹介した。

事実の羅列をさけ，学習に深まりをもたせていく手だてとしては，以下のようなノート指導を行うことにした。


調べた方法
おばあちゃんから
わかったこと
① 兵隊がかいじょされた
(中国や南方から
宇品港へ)
服はけんしょうがとられて ふつうのすがたになっていた。服はボロボロでした。戦争をほうきしたため てっぽうや短剣は持っていなかった。ほとんど手ぶら。帽子は星がとれていた。
(戦地からひき上げた 元日本兵)

1　自分の予想を明記する
2　予想をたしかめる方法を明記する
3　調べたことに対しては，その資料や入手先を必ず明記する。また，写すのではなく，自分なりのことばでまとめるようにする。
4　調べてわかったことに対して自分の感想を加える。

最後に，自分の感想を加えることを求めたが，児童は感想を書くことを通して自分の学習をふりかえり，より認識を深めたり新な疑問を見い出すのではないかと考えている。つまり，児童一人ひとりの学習の連続性と深まりを期待しているわけである。

(5) 集団で思考する全員学習

集団で予想を確かめていく場合，それ以前のひとり学習で得た知識や資料，見方，考え方を生かしていかなくては，児童の追求意欲や学習の深まりは期待できない。そこで，この点に留意した学習を進めてみた。ここでは「公園建設当初，ファミリープールや文化科学館をどうしてつくらなかったのか，そのわけを当時のくらしのようすから理解させる」場面について述べてみたい。

① 「そのころは，どんな世の中でしたか。みんなの予想と比べてどうでしたか」と発問し，児童のひとり学習での成果をひきだそうとしてみた。児童は「予想どおりだ」「いやちがった」といい合いながら自分で得た資料をもとに当時のようすを発表してきた。児童の資料については，小さいものは拡大コピーで大きくするなどの手助けを事前におこない，紹介しやすいものにしておいた。発表では，児童が互いに調べあっているため，関連した発表や補充する発言が続き，より深い事実のとらえができた。

② 児童の発表をより確かなものにしていくために，教師は当時のようすを伝えるビデオや写真を活用し実感的な理解と補足説明をおこなった。また，当時，公園建設にかかわっていた人の話を紹介しプール等を建設しなかったわけをおさえていった。

次に，「世の中のくらしが苦しかったにもかかわらず，子ども図書館を建設しているわけを理解させる」場面づくりについて述べてみたい。

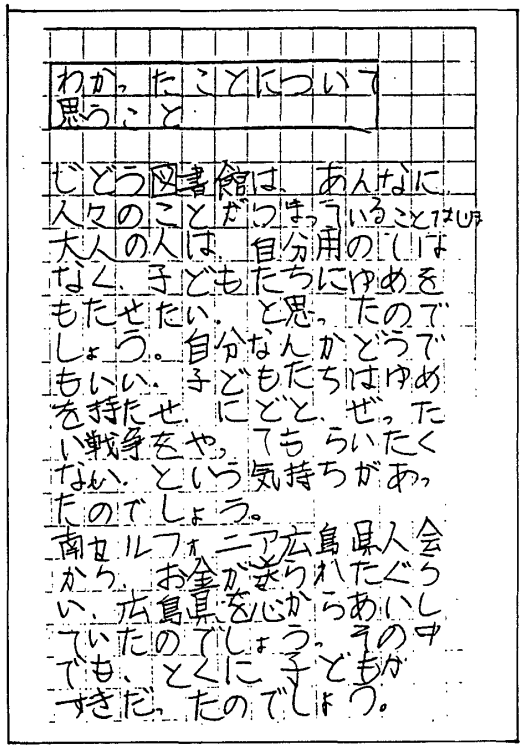
(昭和33年当時本川で泳ぐ子ども)

① 児童が当時，食べるものを得るのにも大変な時代ととらえたところで「世の中のくらしが苦しいのに，どうして児童図書館をつくったのでしょう」とゆさぶり発問をおこなってみた。児童はとまどい，しばらく沈黙が続いたが，さきのひとり学習で知り得たことや，考えたことをもとにして自分なりの予想を出してきた。以下はその主なものである。

○せめて本を読んでりっぱな人になってほしい。
○戦争のつらさを教えたい
○父母を亡した子に夢をもってほしい。
○すぐ戦争をするのではなく話し合う人になってほしい。
○せめて１つぐらいはつくりたい。
○材料はなんとかひろいあつめてつくった。

② 予想をたしかめるために，ひとり学習を位置づけたが，児童にとって資料の入手や聞きとりが難しかったため，教師の資料で検証をおこなうことにした。検証で使用した資料は，昭和24年当時の市民の望む公共施設アンケート，建設費用をまかなおうとした南カルフォルニア州広島県人会からの手紙，児童図書館建設の年表，と当時の図書館員の話である。

右の反応は学習後の児童の感想である。当時の人々の平和を願う心にもとづいて，子ども専用の図書館が建設されたことをとらえていることがわかる。



わかったことについて思うこと

じどう図書館は、あんなに人々のことがつまっていることだし、大人の人は、自分用のしはなく、子どもたちにゆめをもたせたい、と思ったのでしょう。自分なんかどうでもいい、子どもたちはゆめを持たせ、にどと、ぜったい戦争をやってもらいたくない、という気持ちがあったのでしょう。
南カルフォニア広島県人会から、お金が送られたぐらい、広島県を心からあいしていたのでしょう。その中でも、とくに、子どもがすきだったのでしょう。

3　考察

児童が自力で解決する「ひとり学習」と集団で思考し吟味する「全員学習」の２ステップを位置づけた追求過程が児童の自ら学ぶ意欲を高めたか，また学習に深まりをもたせたかについてアンケート結果とノート記述をもとに考察してみたい。

学習をふりかえって「また，この学習（ひとり学習→全員学習）をしてみたいですか」と聞いたところ37人中35人がとてもやりたいと答え，２人がやりたいと答えた。このことから，この追求過程は，児童の追求意欲を高め持続させていくうえで効果的であったと考えられる。

それぞれのステップについてみると，「ひとり学習」では34人（91％）がやる気があると答えており，その主な理由として次の点をあげている。

○ 自分で学んでいるという自覚と喜び
○ 自分で自分なりに考えを深められる楽しさ
○ 自分で調べるたのしさや喜び
○ 調べる方法を自分にまかされている喜び

このことから，ひとり学習を位置づけることにより，児童は，学習の主体者としての自覚がより強化され，一方で，自分で自由に調べたり，まとめたりすることの楽しさが増幅されているといえる。このことが，児童の追求意欲を持続，強化していると考えられる。

ひとり学習の意識

人に聞いたり、本で調べたりして、自分の予想とくらべるのがすきだから。

予想を考えるのもすきです。1人で調べてあっそうか！とかひらめいたり、わかって、おどろいたりなぜかおもしろいから。

集団で思考する全員学習では35人（94％）がやる気があると答えており，その主な理由は，

○ 自分でしらべ考えたことをお互いの発表の中で，たしかめたり，深めたり，広げたりすることへの喜び，楽しみ。
　・わからないことがはっきりする（明確）
　・まちがいをなおせる　（修正）
　・新しいことがわかる　（拡充）
　・やっぱりそうかとわかる　（共感強化）
○ 友人と共に学べる楽しさ喜び

このことから，ひとり学習のあとに，全員学習を位置づけることにより，児童は，めあてに対する自分の考えを自ら修正，深化，補充したり，また共感したりして深めることができ，そのことの楽しさや喜びが学習への意欲を高めているといえる。

また，自分なりの考えをもっていることが学習参加への安心感と互いに学び合うことへの期待感をひきだしているといえる。

全員学習の意識

みんなの思っていることがわかって、「反対」とか「賛成」とか「ふ～ん」とか「それもあるなあ」とかわかって、自分の意見がふくらんで、思ったことや予想がふえて、とてもうれしいし、自分の思っていることがみんなに通じると、とてもうれしく思います。だからいつも、わくわくして楽しみだから

上記のそれぞれのステップでの理由や児童の反応をもとに，児童が意欲的に取り組んでいく授業の条件を整理してみると

○ 自分自身の考えや方法で追求できる場が設定されていること。
○ 自分自身で追求できる時間的な保障がなされていること。
○ 自分自身の追求を深化させたり，修正したりする場が設定されていること。

○ お互いに意見交換ができる支持的基盤があること

問題点としては，ひとり学習で，「あまり長くしらべるのはあきる。1時間ぐらいならいい」「本がたりなく，人と同じ本で同じことをまとめるのはおもしろくない」「調べているとどんどん疑問がでてきて，こんがらがってきた」などあり，また，全員学習では，「長い言い合いを続けると，時々ボーツとする」「すこしつかれる」などであった。このことから，ひとり学習や全員学習のそれぞれのステップで今後の課題として残されたことをまとめると以下の通りである。

○ ひとり学習での時間設定のあり方

○ ひとり学習での追求内容のあり方

○ ひとり学習での資料環境の整備

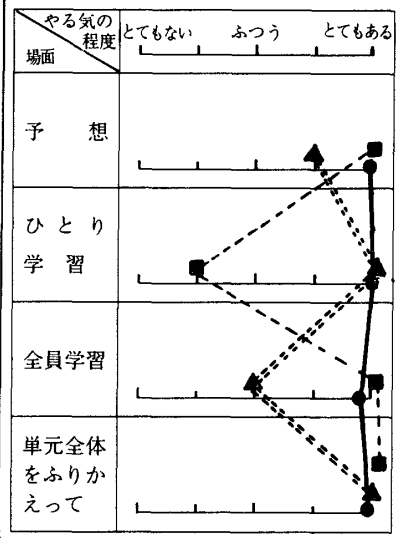
○ 全員学習での討論の方法や時間設定のあり方

上記の問題点をそれぞれの追求ステップで記述していた児童（例A，B児）が，課題把握→一人での追求→全員による追求の学習そのものについては，またやりたいと答えているため，この問題点を，児童の発達段階や個々の特性に応じて多様な方途で改善していくと，より意欲的な追求過程になると考えている。

単元をふりかえっての意識

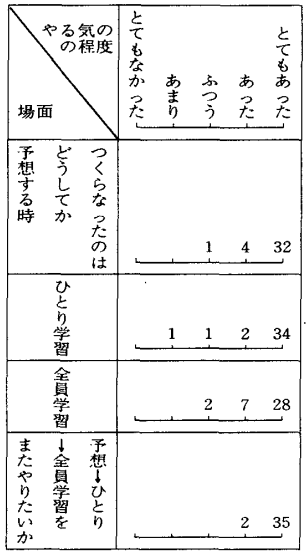
自分たちでせいいっぱい調べてそれから だしあってさらにもっともっとしりたいことをちゃんとわかるようにかくじつにかくにんをしておきたいから こういう勉強をもっともっとふやしていってやっていきたいです。それにすぐ先生がほんとうのしりょうを見せるだけだったらおもしろくないので自分たちでだしあって ぼくが正しいぞ といったりしてそれから先生が正しいことを言ってだれが正しいかわかっていくことはすきだからやりたいです。

▲A児 ■B児●-●は37人の平均値



(37人中)

ひとり学習	全員学習
○自分自身で学んでいるという自覚，喜び（19人） ・自分で調べるとうれしい ・自分の予想だから自分で調べたくなる ○自分なりに考えを深める楽しさ喜び（11人） ・自分でああそうかとわかってくる ・自分でしらべるとなぜかよくわかる ○調べる方法をまかされている喜び（7人） ・人にきいたり，本でよんだり自由 ・自分の方法でまとめることができる ○調べる活動そのものの楽しさ（14人） ・本でしらべるのが好き ・人にきくのが好き	○学習内容の深まりへの喜びたのしさ（20人） ・正しいことがはっきりする ・まちがいを修正できる ・友だちとたしかめて自信がもてる ○学習内容の広がりへの喜び，たのしさ（22人） ・知らないことを知ることができる ・一人ひとりのいろいろな考えがきける ○学習方法の広がりへの期待（3人） ・友だちの調べ方や資料がわかる ○友人と学びあえることの楽しさ（4人） ・自分の考えを友だちに聞いてもらえるのはうれしい ・発表しあうのはたのしい
（やる気をなくしがちだった理由）（3名） ・長くひとりで調べるのはあきる（時間） ・こんがらがってきていやになる（内容） ・人と同じ本で調べるのはおもしろくない（資料）	（やる気をなくしがちだった理由）　1名 ・長く発表しあっているとつかれる



参考文献　自ら学ぶ意欲・態度を育成する指導と評価，広島大学附属東雲小学校紀要　1987年